



入門

IBM Rational DOORS

Rational DOORS 入門

リリース 9.2

この情報を使用する前に、29 ページの『特記事項』にある一般情報を必ずお読みください。

本書は、**IBM Rational DOORS バージョン 9.2**、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースとモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：IBM Rational DOORS
Getting Started with Rational DOORS
Release 9.2

発行：日本アイ・ビー・エム株式会社
担当：トランスレーション・サービス・センター
第1刷 2010.5

© Copyright IBM Corporation 1993, 2010

目次

第 1 章：このマニュアルについて	1
書体の規則	1
関連資料	1
第 2 章：Rational DOORS の紹介	3
Rational DOORS について	3
要件について	4
モジュールについて	4
オブジェクトと属性について	5
「オブジェクト見出し」属性および「オブジェクト・テキスト」属性	6
トレーサビリティについて	6
ビューについて	7
フォルダーおよびプロジェクトについて	8
変更追跡について	8
ベースラインについて	10
編集モードについて	10
チェンジ・プロポーザル・システムについて	11
パーティションについて	11
ユーザー・タイプについて	12
ディスカッションについて	13
第 3 章：クイック・ツアー	15
このツアーについて	15
ツアーを始める前に	15
サンプル・データベースのインストールと実行	16
モジュールの編集	17
ビューの変更	19
リンクの作成	21

属性の作成.....	24
データのソートとフィルタリング.....	25
ツアーの終了.....	26
第 4 章 : 特記事項	29
商標.....	31
第 5 章 : サポートへのお問い合わせ	33
IBM Rational ソフトウェア・サポートへのお問い合わせ.....	33
前提条件.....	33
問題の処理依頼.....	34
その他の情報.....	36
索引	37

1

このマニュアルについて

世界をリードする要件管理アプリケーション、IBM® Rational® DOORS® 9.2 へようこそ。

このマニュアルでは、IBM Rational DOORS (Rational DOORS) への入門に役立つ Rational DOORS の概念を紹介します。

書体の規則

このマニュアルでは、次の書体の規則を使用します。

書体またはシンボル	意味
太字	重要項目、および、ボタンやメニューなどの選択項目。「はい」をクリックして続行します。
イタリック	文書タイトル。
Courier	コマンド、ファイル、ディレクトリーなどの、コンピュータからの出力。 .properties ファイルを編集します。
>	メニューの選択。「ファイル」>「開く」を選択します。つまり、「ファイル」メニューを選択して、「開く」オプションを選択します。

関連資料

次の表に、Rational DOORS ドキュメンテーション・セット内の情報の場所を示します。

内容	参照先
Rational DOORS バージョン 9.2 の新機能	Rational DOORS README ファイル
Rational DOORS のインストール方法	「 <i>Rational DOORS</i> インストール・ガイド」
Rational DOORS を使用するためのライセンスの設定方法	「 <i>Rational</i> ライセンス TL ガイド (<i>Rational License TL Guide</i>)」

内容	参照先
Rational DOORS の使用法	「 <i>Rational DOORS 入門 (Getting Started with Rational DOORS)</i> 」 <i>Rational DOORS の使用</i>
要件の記述方法	「要件管理の手引き」
Rational DOORS の設定および管理方法	<i>Rational DOORS の管理</i>
DXL プログラミング言語	「 <i>DXL リファレンス・マニュアル</i> 」
Rational DOORS を他のアプリケーションと統合する方法	<i>Rational DOORS API のマニュアル</i>

これらの資料は、Rational インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp>) にあります。

2

Rational DOORS の紹介

この章では、Rational DOORS を使用する前に理解する必要がある概念について説明します。

- Rational DOORS について
- 要件について
- モジュールについて
- オブジェクトと属性について
- トレーサビリティについて
- ビューについて
- フォルダーおよびプロジェクトについて
- 変更追跡について
- ベースラインについて
- 編集モードについて
- チェンジ・プロポーザル・システムについて
- パーティションについて
- ユーザー・タイプについて
- ディスカッションについて

Rational DOORS について

Rational DOORS は、ユーザー要件を取り込み、追跡、および管理する機能を含む、要件管理アプリケーションです。

ワープロ・スタイルのインターフェースを使用して、要件を手動で入力します。以下のファイル形式でも要件を Rational DOORS にインポートできます。

- Word、Excel、および PowerPoint を含む Microsoft® アプリケーション
- プレーン (ASCII) テキスト
- リッチ・テキスト・フォーマット (RTF)
- FrameMaker

要件を取り込むと、ビュー、リンク、およびトレーサビリティ分析といったさまざまな機能を使用して、プロジェクトのライフ・サイクルを通して要件を追跡および管理できます。

要件について

要件とは、ユーザーが製品またはサービスに何を求めているかを記述したものです。

例えば、家族に新車を購入しようとする場合、車に必要なもののリストを作成するとします。リストには、以下の項目が含まれるとします。

- 5人乗り以上であること
- 燃費は1ガロン当たり35マイル以上であること
- 価格はX以下であること

特定の色というような、希望する特徴として比較的重要度の低いものは、リストのさらに下の方に追加されることとなります。この作業の結果、購入したい車を指定する**ユーザー要件**リストが完成します。

新車を購入するために要件リストを作成する、という作業は複雑ではありません。しかし、その車の設計者には、より多くの情報が必要です。

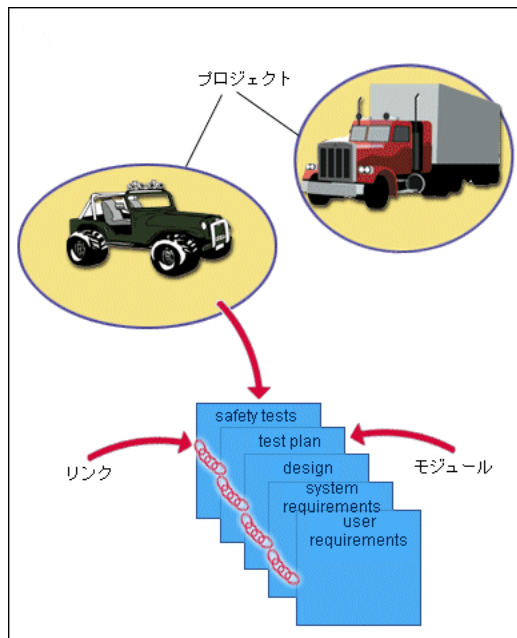
設計者には、提供する車の機能を記述した**システム要件**が必要です。設計者は、これらの要件から設計用の詳細な文書を準備できます。設計の各部分をテストする必要があるため、テスト内容が別の文書に記述されます。

要件を明確に定義しておけば、顧客は望む製品やサービスを確実に得ることができます。また、企業ユーザーが作るべき製品の種類や、提供するべきサービスの種類も明確になります。要件の記述については、「[要件管理の手引き](#)」を参照してください。

モジュールについて

Rational DOORS データベースの中では、情報は**モジュール**に格納されます。

例えば、ある車両メーカーが乗用車とトラックを製造しているとします。



乗用車開発プロジェクトの情報は以下のモジュールに格納されます。

- ユーザーが乗用車に求めている機能の関連情報を含む、ユーザー要件モジュール
- 乗用車のエンジニアリング設計を記述する設計モジュール
- 乗用車に対して実施する必要がある安全性テストを記述する、安全性テスト・モジュール

オブジェクトと属性について

各モジュール内の情報は、**オブジェクト**および**属性**に分割されます。「作成者」や「変更日 (Modified On)」などのデフォルト属性が用意されていますが、優先度や状態などの他の情報を格納するために独自の属性を作成できます。

オブジェクトは、番号付きの見出しで階層構造に編成されています。左側のモジュール・エクスプローラーのプラス記号とマイナス記号をクリックすることで、構造内を迅速に移動できます。

見出し番号は、Microsoft Word などのワープロソフトの見出し番号自動付加機能と同じ方法で与えられます。見出し番号を使用してモ

ジュール内の情報の構造を確認できます。オブジェクトの挿入や削除などによって情報の構造が変更された場合、見出し番号は自動的に変更されます。

「オブジェクト見出し」属性および「オブジェクト・テキスト」属性

メイン列は、モジュールの標準ビューで表示されます。属性を1つしか持てない他の列とは異なり、メイン列には「オブジェクト見出し」および「オブジェクト・テキスト」という2つの属性を表示できます。

メイン列の各属性と、その説明を次の表に示します。

メイン列の属性	説明
オブジェクト見出し	この属性は太字で表示され、Rational DOORS によって自動生成される見出し番号が付いています。 例として、前出の図の1番上のオブジェクトを見てください。その「オブジェクト見出し」属性は「 燃料の節約 (Fuel economy) 」であり、見出し番号は「 4.1.4 」です。
オブジェクト・テキスト	この属性は、通常のフォントで表示されます。 例として、前出の図の1番下のオブジェクトを見てください。その「オブジェクト・テキスト」属性は、「 ユーザーが同レベルで走行できること (Users shall be able to travel at the same level) 」で始まります。

トレーサビリティについて

Rational DOORS では、関連する情報をリンクできます。

例えば、ユーザーの要件と、その要件を満たす設計機能をリンクできます。その設計機能は、機能を検証するためのテストとリンクすることもできます。

リンクによってトレーサビリティが得られます。構築しているものがユーザー要件を満たしているかを確認できます。

リンクは双方向に追跡できます。例えば、テストが失敗した場合、そのテストから設計機能へ、さらに設計機能から要件へ、さかのぼってリンクを追跡すれば、影響を受ける要件を見つけることができます。

リンクは、変更の管理も可能にします。データの一部を変更した場合の、システムの他の部分への影響をすばやく追跡することができます。

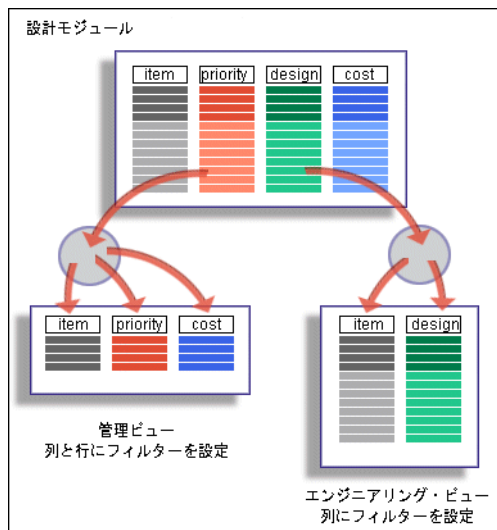
例えば、技術部門から、希望していた太陽電池を供給できないと伝えられたとします。リンクを追跡して、電池オブジェクトから、それに依存する要件へさかのぼったり、太陽電池の搭載を前提としている、車の他の機能へ進んだりできます。これにより、太陽電池を使えないことによる全影響を即座に把握することができます。従来の電池を使用するか、さらに費用、時間、および資源を費やして太陽電池の提供を支援するかについて、十分な情報を得た上で決断を下すことができます。

ビューについて

必要な情報はユーザーの職務によってさまざまです。次のような例を考えてみます。

- 管理者は、スケジュールおよびコストの情報に関心があります。
- エンジニアは、技術的な設計情報に関心があります。

それぞれのユーザーに対して、異なるモジュールのビューを作成できます。各ビューには、モジュール内のオブジェクトまたは属性のサブセットが含まれます。





この図は、乗用車開発プロジェクトにおける設計モジュールの2つのビューを示します。

管理ビューには優先度の高い項目のみが含まれており、「優先度」属性および「コスト」属性が表示されます。エンジニアリング・ビューにはすべての項目が含まれており、「設計」属性が表示されます。

ビューを使用すると、まさに必要な情報のみを見ることができ、情報が多すぎて困ることはありません。表示する必要のないデータを取り除くことができます。ビューでは、オブジェクトまたは属性、あるいはその両方を取り除くことができます。

フォルダーおよびプロジェクトについて

コンピュータ上でファイルを整理する際にフォルダーを使用するのと同様に、Rational DOORS 内のモジュールを編成するには**フォルダー**  を使用します。

プロジェクト  は、特定のプロジェクトの関連データをすべて格納する特殊なフォルダーです。例えば、新車に関するすべての情報は、「**SUV 4x2 (Sports utility vehicle 4x2)**」という名前のプロジェクト・フォルダーに格納されます。

Windows[®] 上のエクスプローラーでの操作と同様に、このデータベース階層を移動するには **Rational DOORS** データベース・エクスプローラーのプラス記号とマイナス記号をクリックします。

注 プロジェクトはフォルダーを、フォルダーはプロジェクトを格納できます。

フォルダーとプロジェクトのいずれもモジュールを格納できます。

変更追跡について

Rational DOORS では、データベースに対して行われた変更が追跡されます。

データベースに対する変更は履歴として記録されます。例えば、オブジェクトの属性を編集すると、古い値と新しい値の両方が記録されます。

誰がどのような変更をいつ行ったかを確認できます。モジュール、特定のオブジェクト、またはモジュールのユーザー・セッションの履歴を確認することができます。

Rational DOORS には、変更内容を一目で確認できる変更バーも用意されています。

オブジェクトの変更バーの色、シンボル、および吹き出しヘルプによって、オブジェクトのステータスがわかります。

変更バー	吹き出しヘルプの例	説明
	新しいオブジェクト	現在のセッションでオブジェクトを作成しましたが、その変更は保存されていません。
	未保存の変更	現在のセッションでオブジェクトが編集されていますが、その変更は保存されていません。
	15/08/2009 16:16:16 に管理者によって最後に変更されました	オブジェクトが、モジュールが最後にベースライン化されて以降に変更されており、その変更は保存されています。
	ベースライン化	モジュールが最後にベースライン化されてから、オブジェクトが変更されていません。
	削除されました	モジュールが前回ベースライン化されたとき以前にオブジェクトが削除されたか、履歴がロードされていません。
	15/08/2009 16:18:16 に管理者によって削除されました	モジュールが最後にベースライン化された後にオブジェクトが削除され、履歴がロードされました。

注 編集した内容のうち、どのような編集を変更バーで追跡してデータベース履歴に記録するかを制御できます。特定の属性に対する編集の有無を知る必要がない場合は、その属性に対する変更バーの表示をオフにすることができます。

ベースラインについて

ベースラインは、読み取り専用のモジュールです。ベースラインは、特定の瞬間の情報を記憶し、保持します。

モジュールのベースラインを作成すると、編集できないモジュールのコピーが作成されます。

ベースラインには、モジュールに関する次の履歴が含まれます。

- モジュールの最新ベースラインが作成された後に作成、削除、または編集されたすべての属性定義および属性タイプ
- モジュールの最新ベースラインが作成された後に作成、削除、または編集されたすべてのオブジェクト
- 初めて作成されてからのすべてのモジュール・セッション（モジュールが開かれた全時間）

編集モードについて

モジュールを操作するには、次の表に示す3つの**編集モード**を使用できます。

編集モード	説明
読み取り専用	モジュール表示することはできますが、編集はできません。
排他的	特定のユーザーだけがモジュールを編集できます。他のユーザーは表示することしかできません。
共有可能	複数のユーザーが同時にモジュールを編集できます。1つのセクションを編集している間に、他のユーザーがそのモジュールの他のセクションを編集できます。

現在使用している編集モードは、モジュール・ウィンドウの下部のステータス・バーに示されます。

モジュールを開くと、編集モードを変更できます。

詳しくは、オンライン・ヘルプと「*Rational DOORS の使用*」を参照してください。

チェンジ・プロポーザル・システムについて

チェンジ・プロポーザル・システムは、モジュールのレビューとモジュールに対する変更の提案を可能にします。このシステムを使用すると、フィードバックの取得とデータの変更を完全に管理できます。

Rational DOORS に格納されている情報は、組織全体のユーザーが調べられ、それに対してコメントを述べることもできますが、編集することはできません。

チェンジ・プロポーザル・システムの設定は、チェンジ・プロポーザル管理者が行い、この管理者がレビューの対象となるデータとレビューを実行できる人物を管理します。

レビューアーは、2種類のコメントを出すことができます。どちらのコメントも**プロポーザル**と呼ばれます。

プロポーザル	説明
サジェスチョン	概略コメント。例えば、プロジェクトに必要なテスト計画に関するサジェスチョンなど、です。
チェンジ・プロポーザル	特定のモジュールの特定のオブジェクトに関する詳細なコメント。例えば、特定のオブジェクトの「 見積り期間 」属性の値を 20 日から 30 日に変更するようなプロポーザル、などです。

チェンジ・プロポーザル・レビューアー・チーム（**変更管理委員会**または **CCB** ともいう）は、各プロポーザルを検討し、適切な処置を決定します。プロポーザルを承認するか、拒否するか、または保留するかを決定します。

例えば、発行したプロポーザルが承認された場合など、Rational DOORS は発行したプロポーザルのステータスが変わると、自動的に電子メールを送信します。

パーティションについて

パーティションとは、ホーム・データベースの通常の間所以外の所でモジュールを編集できるようにするための方法です。次の例では、パーティションのモジュールの編集方法について説明します。

ある会社が Rational DOORS を使用してプロジェクトを管理していません。プロジェクトの一部は請負業者が設計していますが、請負業者は会社のホーム・データベースへのアクセス権を持っていません。

会社は、請負業者が必要とするモジュールが格納されたパーティションを作成して請負業者に送り、請負業者はそれを編集します。請負業者へ送られた、アウェイ・データベースのモジュールはすべて、ホーム・データベース側で読み取り専用として設定されます。

パーティションに含まれるそれぞれのモジュールは、ホーム・データベースで読み取り専用、またはアウェイ・データベースで読み取り専用のいずれかの状態となります。1つのモジュールを同時に編集することはできません。

請負業者は、モジュールを編集し、その作業が終了するとモジュールをホーム・データベースに戻します。これで、ホーム・データベースのユーザーはアウェイ・データベースで行われた変更を確認できるようになり、ホーム・データベースでモジュールは読み取り専用ではなくなります。

パーティションにベースラインや履歴のデータは含まれません。

パーティションについて詳しくは、Rational DOORS オンライン・ヘルプ、または「*Rational DOORS の管理*」を参照してください。

ユーザー・タイプについて

Rational DOORS では、実行できる管理タスクの種類に応じて、ユーザーを複数のタイプに分類しています。

大部分の Rational DOORS ユーザーは、**標準ユーザー**です。つまり、データは操作できますが、データのアーカイブや新規ユーザーの作成などの管理タスクは実行できません。

プロジェクト管理者は、限られた一連の管理タスクを実行できます。実行できるのは、データのパーティション作成とアーカイブ、およびグループの作成と管理です。ユーザーの新規作成は行えませんが、グループの新規作成やグループに対するユーザーの追加、グループに所属するユーザーの削除などが実行できます。

データベース管理者は、すべての管理タスクを実行できます。プロジェクト管理者が実行できるタスクに加え、プロジェクトとユーザーの作成、およびデータベースの管理ができます。

最後に、任意に組み合わせた権限を持つことができる、**カスタム・ユーザー**があります。例えば、カスタム・ユーザーはデータのパーティション作成を行う権限を持つことができます。このユーザーの権限は標準ユーザーを上回りますが、プロジェクト管理者の権限にはおよびません。

ユーザーを作成する権限を持つデータベース管理者とカスタム・ユーザーは、すべてのユーザーのタイプを変更できます。現時点で標準

ユーザーであるからといって、いつまでも標準ユーザーのままとは限りません。例えば、新規プロジェクトの管理を開始する場合は、自分のユーザー・タイプを標準ユーザーからプロジェクト管理者に変更するようデータベース管理者に依頼できます。

ディスカッションについて

ディスカッションは、レビューアが、モジュールの内容、またはモジュール内のオブジェクトの内容について意見を交換するためのしくみです。

リンクされたレビュー用文書を用意したり、レビュー対象のモジュールに新たにテキスト属性を追加する代わりに、Rational DOORS の機能により、オブジェクトおよびモジュールについて、進行中のディスカッションを維持できます。ディスカッションは、オブジェクトまたはモジュールのプロパティーの一部として提供されます。

Rational DOORS 9.2 以降のデータベース・サーバーを使用している必要があります、そのサーバーはディスカッションの機能が完全に利用できるように、Rational DOORS 9.0 クライアントを除外するように構成されている必要があります。

モジュール、およびモジュール内のオブジェクトに対して、ディスカッションの作成、表示、変更ができます。

3

クイック・ツアー

この章は、以下のトピックから構成されます。

- このツアーについて
- ツアーを始める前に
- モジュールの編集
- ビューの変更
- リンクの作成
- 属性の作成
- データのソートとフィルタリング
- ツアーの終了

このツアーについて

このツアーでは、Rational DOORS の概要について説明します。所要時間は約 15 分です。手順に従ってコンピュータ上で実際に操作することもできます。または、実際に操作しないで、ツアー全体に単に目を通すだけでもかまいません。

ツアーを始める前に

ツアーのこの部分では、サンプル・データベースのインストール、Rational DOORS の実行、サンプル・プロジェクトのコピー作成を行います。

このツアーではサンプル・プロジェクトのコピーを使用するので、ツアー中に操作を間違えても心配は無用です。オリジナル・コピーはそのまま残ります。


サンプル・データベースをインストールする前に、Rational DOORS クライアントをインストールします。Rational DOORS クライアントのインストール方法については、「*Rational DOORS インストール・ガイド*」を参照してください。このマニュアルは、Web サイト <http://www.ibm.com/software/awdtools/doors/support/doc.html> から入手できます。

サンプル・データベースのインストールと実行

サンプル・データベースをインストールして実行するには

1. サンプル・データを以下の手順でインストールします。
 - a. システム管理者から Rational DOORS サンプル・データ・ソフトウェアを入手します。このファイルの名前は、**IBM Rational DOORS 9.2 Example Data.msi** です。このファイルをコンピューターにコピーします。
 - b. このファイルまで移動してダブルクリックします。
「ようこそ」画面が表示されます。
 - c. 「次へ」をクリックします。
「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。
 - d. 使用許諾契約書の諸条件を受け入れる場合は、「合意 (I accept...)」オプションを選択して「次へ」をクリックします。
「プログラムのインストールの準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。
 - e. 「インストール (Install)」をクリックします。
すべてのファイルのコピーが完了すると、「完了」画面が表示されます。
 - f. 「完了」をクリックします。
2. サンプル・データベースを起動します。
「開始」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Rational」 > 「IBM Rational DOORS 9.2 サンプル・データ (IBM Rational DOORS 9.2 Example Data)」をクリックします。
Rational DOORS が開き、表示された「ログイン」ウィンドウにユーザー名とパスワードを入力するよう要求されます。
3. ユーザー名に「Eric McCall」、パスワードに「Training」と入力します。大文字は、ここで示すとおりに入力します。Rational

DOORS では、ユーザー名とパスワードは大文字と小文字が区別されます。

4. 「OK」をクリックします。
5. 「ようこそ」画面が表示された場合は、その画面を閉じます。
Rational DOORS データベース・エクスプローラーが表示されます。
これで Rational DOORS プロジェクトをコピーできます。
6. 右ペインで「サンプル・データ」フォルダーをダブルクリックします。
7. そのまま右ペインで、「会社の計画 (Company Programs)」、「車両プロジェクト (Vehicle projects)」、「軽トラック (Light Trucks)」の順にダブルクリックします。
右ペインに「SUV 4x2 (Sports utility vehicle 4x2)」プロジェクトが表示されます。
8. 右ペインで「SUV 4x2 (Sports utility vehicle 4x2)」プロジェクトを選択して **Ctrl+C** を押し、プロジェクトをデータベース・エクスプローラーのクリップボードにコピーします。
9. 「プロトタイプ (Prototypes)」フォルダーをダブルクリックして開きます。
左ペインに、開かれているフォルダーのアイコンを使用して「プロトタイプ (Prototypes)」フォルダーが表示されます。
10. **Ctrl+V** を押して、サンプル・プロジェクトを「プロトタイプ (Prototypes)」フォルダー内に貼り付けます。
「SUV 4x2 のコピー (Copy of Sports utility vehicle 4x2)」という名前のプロジェクトが作成されます。この作業は、約 30 秒かかります。

モジュールの編集

ツアーのこの部分では、モジュール内のテキストを編集し、モジュール内でオブジェクトを作成します。以下のようにします。

1. 最初に、コピーしたプロジェクトをダブルクリックします。次に、その中の「要件」フォルダーをダブルクリックします。
右ペインに「ユーザー要件」モジュールが表示されます。
2. 「ユーザー要件」モジュールをダブルクリックして開きます。

3. 「ユーザー・タイプ」見出しの下の要件をダブルクリックし、「提案車両」を「新規車両」に変更します。

マウスをダブルクリックすると編集モードに入ります。オブジェクトの先頭にカーソルが表示されます。このカーソルは、点滅しない細い縦棒です。矢印キーを使用するかマウスをクリックしてカーソルを移動し、「提案」を削除して「新規」を入力します。

オブジェクトの上下に表示される細い線に注意してください。この線は、現行オブジェクトを示します。


4. 画面をスクロールして、表の下にある淡い灰色の背景を持つオブジェクトまで移動します。このオブジェクトを編集してみましょう。実行できないはずですが、キーを押しても何も起こりません。この淡い灰色の背景は、このオブジェクトに対してユーザーが与えられているのは読み取り権限だけであることを示しています。オブジェクトの編集は許可されていません。
5. 次に、モジュールの最後までスクロールします。最後のオブジェクトである「予想される追加コスト (Expected further costs)」が表示されます。

このオブジェクトを（ダブルクリックではなく）シングルクリックし、「なし」と入力します。入力したテキストがオブジェクトの末尾に追加されます。


入力を開始すると、Rational DOORS では自動的に編集モードに入り、カーソルがオブジェクトの末尾に移動します。これは、素早くオブジェクトを編集する方法です。

6. **Ctrl+Return** を押してオブジェクトを作成し、任意のテキストを入力します。
7. テキストを何も入力せずに **Ctrl+Return** を 2 回押すと、最初の新規オブジェクトに見出し番号 (7.1) が付けられることに注意してください。テキストを 1 文字も入力しなかったため、オブジェクトが見出しとして認識されています。

Ctrl+Return を押すと、現在のオブジェクトと同じレベルのオブジェクトが階層内に作成されます。

8. 「オブジェクト」ツールバーの「下に新規オブジェクト」 をクリックして、現在のオブジェクトの 1 レベル下にオブジェクトを作成します。

注 このアイコンをクリックしてから入力を開始すると、見出し番号が消え、オブジェクトは見出しではなくなります。見出しを入力したい場合は、

「オブジェクト見出しの編集」+ を「オブジェクト編集」ツールバーでクリックしてから、入力を開始します。

9. 作成したオブジェクトをすべて削除します。マウスの右ボタンをクリックしてポップアップ・メニューから「削除」を選択するか、**Delete** を押します。
10. 画面を上方向にスクロールしてモジュールの先頭まで戻り、変更バーの表示をオンにします。「表示」>「表示」>「変更バー」の順にクリックします。

色付きの変更バーが左端に表示されます。

赤の「未保存の変更」変更バーは、現在のセッション中にオブジェクトを編集したものの、モジュールの保存を行っていないため、変更はメモリーに残っていることを示します。変更は、モジュールを保存したときにデータベースに保存されます。

黄色の「保存された変更」変更バーは、モジュールのベースライン作成以降にオブジェクトが編集され、変更が保存されていることを示します。

11. このツアーの最初に編集したオブジェクトの隣に表示されている、赤の「未保存の変更」変更バーをダブルクリックします。オブジェクトの変更履歴が表示されます。

最後のエントリーを選択して、変更の詳細を表示します。

現在表示されているのは、オブジェクトのプロパティ・シートです。このシートを使用して、アクセス権、属性値、およびリンクに関する情報を確認できます。

12. 「次へ」または「前へ」をクリックして、次または前のオブジェクトを表示します。この操作を行うと、モジュール・ウィンドウ内の現在のオブジェクトが変化することに注意してください。現在プロパティ・シートにその内容が表示されているオブジェクトが、現在のオブジェクトになります。

13. 「キャンセル」をクリックしてプロパティ・シートを閉じます。

ビューの変更

ツアーのこの部分では、モジュールのさまざまなビューについて説明します。

1. 使用可能なビューのドロップダウン・リストから「**エクスプローラーを使用した基本ビュー (Basic view with explorer)**」を選択し、モジュールの先頭までスクロールします。

このビューは、モジュール・エクスプローラーを示しています。モジュール・エクスプローラーには、オブジェクトの階層構造が表示されます。このビューを使用して、構造内を素早くナビゲートできます。

2. 左ペインのプラス符号をクリックすると、「**4.1.4 燃料の節約 (4.1.4 Fuel economy)**」と表示されます。
3. 左ペインでこのオブジェクトをクリックし、右ペインに表示される現在のオブジェクトにします。
4. モジュール・エクスプローラーをオフにします。「表示」>「モジュール・エクスプローラー」の順にクリックします。
5. 別のビューを表示します。「**予算 (Budget)**」ビューを選択します。

このビューには、5つの列があります。左端の列には、Rational DOORS が各オブジェクトに対して生成する固有の**オブジェクト ID**が表示されます。この ID は、**プレフィックス (SOW)** および **オブジェクト番号** (例えば 11) で構成されます。

次の列は**メイン列**です。「**オブジェクト見出し**」と「**オブジェクト・テキスト**」属性が表示されます。

現在のオブジェクトは、モジュールの最初のオブジェクトではないことに注意してください。ビューを作成するときには、どのオブジェクトを現在のオブジェクトにするかも含めて、ビューを初めてロードするときの画面の表示方法を、あらゆる面で制御できます。

6. ビューのドロップダウン・リストから別のビューを選択し、同じデータの表示がビューによってどのように変化するかを確認します。ビューでは、どの情報を表示し、どの情報を表示しないかを指定できます。
7. 次に、変更バーの表示をオフにします。「表示」>「表示」>「**変更バー**」の順にクリックします。
8. 「表示」ドロップダウン・リストの右側にある「**このレベルまで表示**」ドロップダウン・リストを使用して、「**レベル 1**」を選択します。

この操作によって、モジュール内の7つの最上位オブジェクトのみ表示されます。>シンボルは、下位レベルのオブジェクトが非表示になっていることを示します。

9. ドロップダウン・リストから「**すべてのレベル**」を選択します。すべてのオブジェクトが再び表示されます。
10. 「**表示**」>「**アウトライン**」の順にクリックします。
アウトライン表示がオンになります。この操作によって、見出しのあるオブジェクトだけが表示されます。
11. 上の例に示されている見出し「**要件**」をクリックして現在のオブジェクトにします。次に、「**表示**」>「**圧縮**」の順にクリックしてオブジェクトを圧縮します。
プラス記号は、セクション4が圧縮されていることを示します。
12. セクション4を圧縮解除します。
それが現在のオブジェクトになっていることを確認してから、「**表示**」>「**圧縮**」の順にクリックします。
13. アウトライン表示をオフにします。
「**表示**」>「**アウトライン**」の順にクリックします。

リンクの作成

ツアーのこの部分では、リンクのトレースと作成を行います。以下の手順に従います。

1. 使用可能なビューのドロップダウン・リストから「**エクスプローラーを使用した基本ビュー (Basic view with explorer)**」を再度選択します。
2. モジュールの先頭までスクロールします。
3. 「**表示**」>「**表示**」>「**リンク矢印**」の順にクリックし、リンク矢印の表示をオンにします。
赤と黄のリンク矢印が表示されます。
赤い矢印にマウス・カーソルを重ねると、そのオブジェクトにいくつのアウト・リンクがあるかが表示されます。モジュールの2番目のオブジェクトには、アウト・リンクが1つあります。
4. 赤いリンク矢印を右クリックします。ポップアップ・メニューが表示され、ターゲット・オブジェクトに関する情報を表示します。

ターゲット・オブジェクトは、**機能要件**モジュールの中にあります。このモジュールは開いていないので、オブジェクト番号「145」に続いて「<アンロード済み>」と表示されます。

5. ポップアップ・メニューから「145<アンロード済み>」を選択します。モジュールが開き、そのオブジェクトが現在のオブジェクトになります。

このターゲット・オブジェクトには黄色のイン・リンク矢印が付きます。イン・リンク矢印を右クリックし、ポップアップ・メニューを使用して**ユーザー要件**モジュールに戻ります。

6. 次にリンクを作成します。**ユーザー要件**モジュールの中で、次の操作を行います。
 - a. モジュールの先頭までスクロールし、2番目のオブジェクトをシングルクリックしてそれを現在のオブジェクトにします。

注 オブジェクトを選択するにはシングルクリックします。ダブルクリックすると編集モードに入り、編集モード・ポップアップ・メニューが表示されます。

- b. 右クリックして「リンク」>「リンクの開始」の順に選択します。

オブジェクトがピンク色に変化し、リンクの起点になっていることが示されます。

7. 機能要件モジュールから任意のオブジェクトを選択し、右クリックして「リンク」>「スタートからのリンクの作成」の順に選択します。

リンク・モジュールとリンクセットの作成を確認するメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックします。

リンクが作成されました。ユーザー要件モジュール内の赤いリンク矢印のツールチップは、オブジェクトに2つのアウト・リンクがあることを示します。

8. オブジェクトは依然としてピンク色なので、ステップ7を繰り返せば、このオブジェクトを起点とするリンクをさらに作成できます。

リンクの作成が終了したら、「リンク」>「スタートのクリア」の順にクリックして、リンクの起点をオフにします。オブジェクトのピンク色が消えます。

ここで使用した、右クリックで表示されるリンク・オプションは、「リンク」メニューにも含まれていることに注意してください。

- 最後に、トレーサビリティ・エクスプローラーを表示します。このエクスプローラーでは、リンクの表示とリンク間の移動が別の方法で実行できます。

ユーザー要件モジュール・ウィンドウで、「分析」>「トレーサビリティ・エクスプローラー」の順にクリックします。

トレーサビリティ・エクスプローラーが表示され、モジュール内の全オブジェクトのリストが表示されます。

- アウト・リンクを持つオブジェクトを表示するには、「表示」>「アウト・リンク」の順にクリックします。

リンクがあるオブジェクトには、見出しの横にプラス記号 (+) が表示されます。

注 トレーサビリティ・エクスプローラーにプラス記号が表示されない場合は、ターゲット・モジュールが開いていない可能性があります。「表示」>「すべてのモジュール」の順にクリックします。ターゲット・モジュールが開いているかどうかに関係なく、すべてのリンクに関する情報が表示されます。

- オブジェクト **1.0-1** の横のプラス記号をクリックすると、リンクに関する情報が表示されます。
- リンク先オブジェクト **1.0-1** を選択します。このオブジェクトを格納しているモジュールがステータス・バーに表示されることに注意してください（/SUV 4x2 のコピー (Copy of Sports utility vehicle 4x2) / 要件 / 機能要件のオブジェクト FR-145）。
- リンク先オブジェクトを右クリックし、「オブジェクトの表示」を選択します。ターゲット・モジュールが開き、そのオブジェクトが現在のオブジェクトになります。
- トレーサビリティ・エクスプローラーに戻り、「表示」>「イン・リンク」の順にクリックします。「表示」>「すべてのモジュール」の順にクリックします。現在開いているモジュールだけではなく、すべてのモジュールからのイン・リンクが表示されます。

この操作によって、イン・リンクを持つオブジェクトを調べることができます。

イン・リンクの矢印があることに注意してください。トレーサビリティ・エクスプローラーの矢印の向きは、イン・リンクとアウト・リンクのどちらが表示されているかを示します。

15. 「トレーサビリティ・エクスプローラー」 ウィンドウで、「ファイル」>「終了」の順にクリックします。

属性の作成

ツアーのこの部分では、属性の作成、属性を表示する列の追加、および列位置の変更を行います。


1. ユーザー要件モジュールで、「編集」>「属性」の順にクリックします。

「属性」タブが選択された状態で「列および属性」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「新規」をクリックして属性を作成します。
3. 新規属性の詳細を以下のように設定します。
 - a. 「名前」ボックスに「承認済み」と入力します。
 - b. 「説明」ボックスに「オブジェクトが承認されたかどうかを記録するための属性」と入力します。
 - c. 「タイプ」ボックスで「はい」または「いいえ」を選択します。
 - d. 「デフォルト値」ボックスをオンにし、デフォルト値として「いいえ」を選択します。
 - e. ウィンドウの左下にある「新しい属性を現行ビューに追加」ボックスをオンにします。
 - f. 「OK」をクリックします。
 - g. 「閉じる」をクリックして「列および属性」ダイアログ・ボックスを閉じます。

この操作によって、モジュールに「承認済み」列が追加されます。デフォルト値として「いいえ」を設定したため、この列のオブジェクトの値はすべて「いいえ」になります。


4. 2番目のオブジェクトの値を「はい」に変更します。以下の手順に従います。
 - a. 現在の値（「いいえ」）をダブルクリックします。

この属性に設定できる値（「はい」、「いいえ」、または「デフォルトにリセット」）を示すドロップダウン・リストが表示されます。この場合のデフォルトは「いいえ」です。

- b. このリストから「はい」を選択します。
 - c. 「コミット」ツールバーの「変更の受け入れ」 をクリックします。または、新しい値を指定したい場合は、他の任意のオブジェクトをクリックします。
5. 「承認済み」列のテキストを中央揃えで配置します。列名を右クリックし、ポップアップ・メニューから「中央揃え」を選択します。
- 列名の背景色が薄い灰色になることに注意してください。これは、その列が選択されていることを示します。
6. 列名を左方向にドラッグします。マウス・ボタンを離すと、列全体が移動します。

データのソートとフィルタリング

ツアーのこの部分では、データのソートとフィルターの適用を行います。以下の手順に従います。


1. 「認証済み」属性を使用してデータをソートします。「ツール」>「ソート」の順にクリックします。
2. 「承認済み」および「昇順」を選択してから、「追加」をクリックします。ソート・リストにこのソートが追加されます。
3. 「OK」をクリックします。
承認されているすべての項目が、まだ承認されていないすべての項目の前に表示されます。
4. 表があった場所まで下にスクロールします。テーブルが「>> テーブル」という単一のオブジェクトに置換されていることに注意してください。これは、テーブル・マーカー・オブジェクトです。
ソートの適用中は、テーブルが非表示になります。
5. 「表示」ツールバーの「ソートをオンまたはオフにします」 をクリックします。ソートがオフになり、テーブルの非表示が解除されます。テーブルの場所までスクロールして、テーブルが表示されていることを確認します。
6. 次に、「safety」という単語が含まれているオブジェクトだけを表示するように、ビューをフィルタリングします。「ツール」>

「フィルター」>「定義」の順にクリックし、3番目のボックスに「safety」と入力します。

7. 「OK」をクリックします。


「safety」という単語を含むオブジェクトだけが表示されます。

これは簡易フィルターです。より複雑なフィルター基準を定義できる高度なフィルターも設定できます。


8. フィルターをオフにします。「表示」ツールバーの「フィルターをオンまたはオフにします」をクリックします。



ツアーの終了

ツアーの最後はデータベース・エクスプローラーに戻ります。ここでは、プロジェクト・ビューを確認して、使用したコピー・プロジェクトの削除とパージを行い、Rational DOORS を終了します。

1. 開いているモジュールを閉じます。各モジュール・ウィンドウで、「ファイル」>「閉じる」の順にクリックします。
2. モジュールに対して行った変更を保存するかどうか確認するメッセージが表示された場合は、「いいえ」をクリックします。
3. データベース・エクスプローラーで、左ペイン内の最上位に、データベース  が表示されます。現在のビューはデータベース・ビューです。
4. 「表示」>「プロジェクト・ビュー」の順にクリックして、プロジェクト・ビューに切り替えます。

この操作によって、最上位の項目がプロジェクトになります。アクセスが許可されているすべてのプロジェクトが表示されます。プロジェクト・ビューは、データベースの階層が深いときに役に立ちます。その理由は、作業するプロジェクトを探して階層を移動する必要がないからです。

5. データベース・ビューに再度切り替えます。「表示」>「データベース・ビュー」の順にクリックします。
6. 左ペインで「プロトタイプ (Prototypes)」フォルダーをダブルクリックして、現行フォルダーにします。現行フォルダーには、開かれているフォルダーのアイコンが表示されます。
7. 右ペインで、このツアーの始めに作成したコピー・プロジェクトを選択し、「ファイル」>「削除」の順にクリックします。プロジェクトが画面から消えます。

8. 削除された項目の表示をオンにします。「表示」>「削除された項目の表示」の順にクリックします。
削除されたプロジェクトが表示されます。 アイコンの隅に赤い X 印が表示されています。
9. 削除されたプロジェクト  を選択し、「ファイル」>「ページ」の順にクリックします。
このプロジェクトを本当にページしてもよいか確認するメッセージが表示されます。
10. 「はい」をクリックします。
プロジェクトが完全にデータベースから削除されます。
11. Rational DOORS を終了します。「ファイル」>「終了」の順にクリックします。

© Copyright IBM Corporation 1993, 2010

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 242-8502

神奈川県大和市下鶴間 1623 番 14 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for Rational Software
IBM Corporation
1 Rogers Street
Cambridge, Massachusetts 02142
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願います。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

追加の特記事項が、ご使用のソフトウェア・インストールに含まれる `legal_information.html` ファイルに記載されています。

商標

IBM、IBM ロゴおよび `ibm.com` は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.html をご覧ください。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

5

サポートへのお問い合わせ

この章は、以下のトピックから構成されます。

- IBM Rational ソフトウェア・サポートへのお問い合わせ
- 前提条件
- 問題の処理依頼
- その他の情報

IBM Rational ソフトウェア・サポートへのお問い合わせ

セルフ・ヘルプ・リソースで問題を解決できない場合、IBM Rational ソフトウェア・サポートにお問い合わせ頂き、製品の問題解決の支援を依頼してください。

注 従来からの Telelogic のお客様の場合、

<http://support.telelogic.com/toolbar> に移動して、IBM Rational Telelogic ソフトウェア・サポートのブラウザ・ツールバーをダウンロードできます。このツールバーを使用すると、IBM Rational Telelogic 製品オンライン・リソースに簡単に移行できます。また、すべての IBM Rational Telelogic サポート・リソースが、単一の参照サイト <http://www.ibm.com/software/rational/support/telelogic/> で提供されます。

前提条件

お客様の問題を IBM Rational ソフトウェア・サポートに処理依頼するには、アクティブなパスポート・アドバンテージ ®・ソフトウェア保守契約が必要です。パスポート・アドバンテージは、IBM の総合的なソフトウェア・ライセンスおよびソフトウェア保守（製品アップグレードおよびテクニカル・サポート）製品です。パスポート・アドバンテージには、<http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/howtoenroll.html> からオンラインで登録できます。

- パスポート・アドバンテージの詳細については、http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/brochures_faqs_quickguides.html を参照してください。

- さらに支援が必要な場合には、お客様の IBM 担当員にお問い合わせください。

お客様の問題を（IBM Web サイトから）オンラインで IBM Rational ソフトウェア・サポートに処理依頼するには、さらに以下が必要です。

- IBM Rational ソフトウェア・サポート Web サイトで登録済みユーザーとなること。登録の詳細については、<http://www-01.ibm.com/software/support/> を参照してください。
- サービス要求ツールで、許可された呼び出し元としてリストに記載されていること。

問題の処理依頼

お客様の問題を IBM Rational ソフトウェア・サポートに処理依頼するには

1. 問題のビジネス上の影響を判断します。問題を IBM に報告する際に、重大度レベルを指定するよう求められます。したがって、報告する問題のビジネス上の影響を理解し、評価する必要があります。

以下の表を使用して、重大度レベルを決定してください。

重大度	説明
1	この問題には、 <i>致命的な</i> ビジネス上の影響があります。プログラムを使用できないため、運用に致命的な影響が発生します。この状態は、即時の解決策が必要です。
2	この問題には、 <i>重大な</i> ビジネス上の影響があります。プログラムは使用できますが、厳しく制約されます。
3	この問題には、 <i>軽微な</i> ビジネス上の影響があります。プログラムは使用できますが、（運用上不可欠ではない）重要度の低い機能が使用できません。
4	この問題には、 <i>最小限度の</i> ビジネス上の影響があります。運用に小さな影響が発生するか、または問題に対して合理的な回避策が実装されています。

2. 問題を説明し、バックグラウンド情報を収集します。IBM に対して問題を説明する際には、できるだけ具体的に説明してください。すべての関連したバックグラウンド情報を提示して、IBM Rational ソフトウェア・サポートのスペシャリストが効率的に問題解決を支援できるようにしてください。時間の節約のために、以下の質問に回答を準備してください。

問題の発生時には、どのソフトウェアのバージョンを実行していましたか。

正確な製品名とバージョンを判断するために、お客様に該当するオプションを使用してください。

IBM Installation Manager を開始し、「ファイル」>「インストールされたパッケージを表示 (View Installed Packages)」を選択します。パッケージ・グループを展開し、パッケージを選択してパッケージ名とバージョン番号を確認します。

お客様の製品を始動し、「ヘルプ」>「製品情報」の順にクリックして、製品名とバージョン番号を確認します。

オペレーティング・システムおよびバージョン番号は何ですか (すべての Service Pack またはパッチを含む)。

問題の症状に関連するログ、トレース、およびメッセージは存在しますか。

問題を再現できますか。その場合、どのような手順で問題を再現できますか。

システムに何らかの変更を行いましたか。例えば、ハードウェア、オペレーティング・システム、ネットワーク・ソフトウェア、または他のシステム・コンポーネントに何らかの変更を行いましたか。

現在、問題の回避策を何か実行していますか。その場合、問題を報告する際に、回避策の説明を準備してください。

3. お客様の問題を、IBM Rational ソフトウェア・サポートに処理依頼します。IBM Rational ソフトウェア・サポートへの問題の処理依頼は、以下の方法で行うことができます。

オンライン : IBM Rational ソフトウェア・サポートの Web サイト (<https://www.ibm.com/software/rational/support/>) に移動し、Rational サポート・タスク・ナビゲーターで、「サービス要求のオープン (Open Service Request)」をクリックします。電子問題報告ツールを選択して「問題管理レコード (PMR)」を開き、お客様独自の表現で問題を正確に説明してください。

サービス要求のオープンの詳細については、
<http://www.ibm.com/software/support/help.html> を参照してください。

また、IBM Support Assistant を使用してオンラインでサービス要求を開くこともできます。詳細については、
<http://www-01.ibm.com/software/support/isa/faq.html> を参照してください。

電話：お客様の国または地域の電話番号については、
<http://www.ibm.com/planetwide/> の IBM ディレクトリーで世界全体の連絡先を参照し、お客様の国または地域の名前をクリックしてください。

お客様の IBM 担当員を通して：オンラインまたは電話で IBM Rational ソフトウェア・サポートにアクセスできない場合、IBM 担当員にお問い合わせください。必要な場合には、お客様のために、IBM 担当員がサービス要求をオープンすることができます。各国の完全な窓口情報については、
<http://www.ibm.com/planetwide/> を参照してください。

処理依頼した問題が、ソフトウェアの欠陥または欠落、または文書の不備による場合には、IBM Rational ソフトウェア・サポートは、プログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR には、問題を詳細に記載します。可能な場合には、IBM Rational ソフトウェア・サポートは、APAR が解決され、修正が配信されるまで、お客様が実装可能な回避策を提供します。IBM は、解決された APAR を IBM Rational ソフトウェア・サポートの Web サイトに毎日公開しており、同じ問題が発生している他のユーザーが、同じ解決方法を利用できます。

その他の情報

Rational ソフトウェア製品ニュース、イベント、およびその他の情報については、IBM Rational Software の Web サイト
<http://www.ibm.com/software/rational/> を参照してください。

索引

お

- オブジェクト
 - オブジェクト ID 20
 - オブジェクト番号 20
 - 概要 5
- 「オブジェクト見出し」属性 6
- 「オブジェクト・テキスト」属性 6

か

- カスタム・ユーザー 12

さ

- サンプル・データベース 16

し

- システム要件 4

そ

- 属性
 - オブジェクト見出し 6
 - オブジェクト・テキスト 6
 - 概要 5

て

- データベース管理者 12

と

- トレーサビリティ 6

は

- パーティション
 - 概要 11

ひ

- ビュー
 - 概要 7
- 標準ユーザー 12

ふ

- フォーマル・モジュール
 - 概要 4
- フォルダー
 - 概要 8
- プロジェクト
 - 概要 8
- プロジェクト管理者 12
- プロポーザル
 - サジェスション 11
 - チェンジ・プロポーザル 11

へ

- ベースライン
 - 概要 10
- 変更管理委員会 11
- 編集モード
 - 概要 10

も

- モジュール
 - 概要 4

ゆ

- ユーザー要件 4
- ユーザー・タイプ 12

よ

- 要件
 - 概要 4
 - システム要件 4
 - user requirements 4

ら

- リンク
 - 概要 6

I

- IBM サポート部門へのお問い合わせ 33

R

Rational DOORS

概要 3